

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT



No. 178
 【発行・編集】
 MASUKI 情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田 2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
<http://mid.parfe.jp/>
mid@jewel.ocn.ne.jp

● 祝祭日には国旗を掲げましょう!

結果は出た 国民は政治の行方こそ見守るべき

参議院選挙が終わりました。私なりに 80 点。まあまあ頑張ったかな、と思っ
 ています。個々、反省や愚痴は山ほど
 あります。総じての感想は現実の「自
 民党」、理想の「こころ」、理想と現
 実のギリギリのバランスを取った「維
 新」と言つて可いでしょうか。

私は当然のこととして、百人の会の
 会員の候補を応援していました。全国
 比は地理的に維新の坂井良和先生。N
 万票余りで落選。これは皆「維新」と
 書いて「坂井」と書いてくれなかった
 からです。大阪選挙区で維新から浅田
 さんと高木かおりちゃん二人が、計
 40 万票で当選。大阪から維新は比例
 で、坂井、矢野、三宅、梅村の 4 氏。
 単純計算でも一人 60 万票はあるわけ
 です。ということは 6 割の人が個人名
 を書かなかつたということですよ。

もう一つ、元文部科学大臣の中山成
 彬先生。1 万票ありながら落選。維新
 から出ていたらと思うと、これまた残
 念! 世の中なかなかうまくいこと行か
 ないものです。 増木

2016年07月11日
 京都北山細野の神主 中村重行
 結果(民意)は出た・国民は民意
 が反映された政治の行方こそ見
 守るべき

反日マスコミが利用する「民意」を
 問うのは選挙である。この選挙の結果
 を忠実に実行して行く役割は与党ばかり
 でなくて選ばれた議員すべての役目
 であり責任である。
 「打倒政府・妥当与党!」だけを叫ぶは
 仕事をしているように錯覚している野
 党やマスコミは反省して欲しい。
 「政府転覆」だけが「マスコミ」「野党」
 の仕事ではない。

日頃「国家の安寧と国民の幸せを祈

られている」天皇陛下を少しは見習っ
 て欲しい。

多くの日本国民は「天皇の祈り」を
 政治家が実行してくれる事を望んでい
 るのです。特に大臣達は「天皇の祈り」
 を実行する義務があります。国会議員
 は国民から選ばれていますが大臣は天
 皇から任命されているのですから。
 「大臣はあくまでも大臣なのです」それ
 がいやなら大臣は受けない事です。

昨日のブログに期待を込めて書きま
 した。最近の日本人はそんな馬鹿ばか
 りではありません。それに 18 歳から
 の新しい有権者が日本人としての自覚
 のうえで投票してくれている事を信じ
 て結果を待ちたい。

私はまだ満足はしていませんが期待に
 近い結果でした。(朝までにサンケイ以
 外まだ詳しい分析は出ていないようです
 が) 18 歳 19 歳の新有権者は思ったよ
 うにまともな判断力を持っているよう
 です。

私が「義理」で投票した人は「当選」
 されました。「夢を託して投票した」候
 補者は残念ながら結果はまだ出ていません。
 「民意」を重視する方々!(マスコミ・
 野党) 次の国政選挙まで今回示された「民
 意」を尊重して国政に励んで下さい。

7月10日

国民の権利を行使して来ました。まだ
 涼しい朝の内にはキロ離れた投票所(廃
 校の小学校)へ妻と出かけて来ました。

日本のような民主主義の世界では選挙は
 国民が主張出来る貴重な機会です。多数
 に選ばれた議員と政党は国民の民意を正
 確に実行する勤めがあるはずですよ?
 各党、公約を実行して来た実績で政党
 が選ばれるべきなのに現実はどうでしょ
 う? 国民はこの貴重な一票を国民の権
 利として尊重しているのでしょうか?

投票権を国民の義務だからと考えて仕方

なしに出かけているのでは無いでしょ
 うか? 中には周囲の者に「誰をいれ
 る? 誰にいたら良いか?」など馬鹿な
 質問をするヤカラも見受けられて唖然
 とします。

だから勧誘の熱心な公明党(創価学
 会)や共産党、似非宗教団体の言うなり
 に入れる者も少なからずいるのです。そ
 れが組織票として重視されている政界
 では本場の国民のためになる政策がマ
 トモに実行されていないのです。その結
 果「政治が悪いから」「景気が悪いから」
 「社会が悪いから」とすべて他人のせい
 にして逃げてしまふ無気力の国民が増
 えて来たのです。すべては自分の一票で
 決まると言う自覚が無ければ、世の中が
 どう動こうが、自分で責任を負わざるを
 えないのです。

国民が真剣に取り組まない事には候
 補者も政党も良くならないのです。とか
 何とか言いながら、今日の私の一票は個
 人では「義理で」(この義理が政治に限
 らず大切・利権ではありません)。

比例では「一人でも頑張ってくれてい
 る人に夢を託して」投票して来ました。
 これで結果には悔い無し。結果が良けれ
 ば幸せな気分になります。結果は民意で
 あると言う事をわきまえて各政党は国
 民のために政治を行なって欲しいと思
 います。

選挙の公約が政府を倒す事だけに血
 道をあげる多くの野党を見ていると「選
 挙でなくてクーデターか革命でも起こ
 したら!」
 本来なら国家転覆罪では無いのか?
 と思うような政党と政治家がいるのは
 同じ日本人として悲しくなります。最近
 の日本人はそんな馬鹿ばかりではあり
 ません。

それに 18 歳からの新しい有権者が
 日本人としての自覚のうえで投票して
 きている事を信じて結果を待ちたい。

草野の日記に「杉田謙一民の物の見方」

2016.07.06
靖国神社「祭神」新定義を

西郷南洲の靖国郷土の話である。

平成十六年から二十一年まで靖国神社の宮司をお務めになられた南部利昭氏は南部家第44代当主・南部利英の三男で、南部家をお継ぎになり第45代当主となられた方。また二代前の松平永芳氏の祖父は松平春嶽の長男、松平慶氏氏。また、尾張徳川家を継いだ侯爵徳川義親氏を叔父にもたれた方。

戊辰の戦は、靖国での宮司諸先生の献身的なご努力で国民的な反目は氷解し、和解が成立したと言われる。東北大地震に際しては長年の宿敵関係にあった萩市から多額の支援金が会津に送られ、長州と会津が和解できたのではと以前報道を見たことがある。両者のわだかまりも徐々に薄まり、より日本の一体化が深まっていくのでしよう。あとは西郷隆盛。国民的英雄を靖国神社に合祀できないか。何か象徴的な出来事がないだろうか。わだかまりが解け、「靖国神社」祭神の新定義がなされれば、まことに都合がよいのです。

西尾に同時に編入された三ヶ根山。ここには東條閣下以下七士の墓があり、その皆様の汚名をそそぐべく奉賛会の皆様を中心に活動されていますが、先の靖国様の松平永芳宮司の時代に靖国神社合祀が為され、南部氏も「昭和殉難者」の分祀に反対してくださり、首相による参拝継続を強く求めてくださっていた。この国民的和解という誤解の是正も近い将来必ず為しうると信じます。

西郷隆盛先生が靖国に合祀となれば、一気に全国民の靖国神社になると思うの

です。されば陛下のご親拝もいただきやすくなり、国民の歴史の取り戻しもスムーズにいくでしょう。ごなにかお知恵を、

杉田氏のこのコメントを早速同日、メルマガで紹介した。そうすると次のような意見がY氏から返ってきた。

「私は南洲翁を仰いでいるものですが、それとこれとは全く次元が違います。いい加減なご都合主義的な見解は困りものです。先日も同趣旨のものがあつたと記憶しますが、軽々しい意見発表は控えてもらいたい。」

Y氏に申しあげたい。「南洲翁を仰いでいるもの」が百人いたら、南洲翁に対し百通りの思いがあるということ。自分と意見が違うからと言って、「いい加減なご都合主義」「軽々しい意見」などは失礼極まりない。杉田氏の意見に反対ならご自分の意見を投稿したらいい。私は絶対片方の意見だけ配信(掲載)することはしない。これは断言できる。今までもそうしてきた。どちらが「いい加減」で「軽々しい」かは読んだ人が判断することだ。

現憲法容認派の私(増木)は、ある無効派の人から「増木さんは洗脳されている」と言われたことがある。思い上がりもいに加減にしろ、お前は何様だと言いたい。私が言いたいのは、対立意見を認めない、このような唯我独尊は、運動全体をダメにするということだ。絶対的価値などありえない。

「先日も同趣旨のものがあつた」とは、多分津川雅彦氏のご意見のことだと思いが、西郷隆盛や戊辰戦争で亡くなった人を靖国に祀ることが是非かは私自身よくわからない。筋から言うて祀るべきのようだが、そうすると際限なく

祀る人が多くなる。いくら多くなっても物理的ではないから……。ごなにかお知恵を「この点は杉田氏とまったく同感だ。」

2016.06.28
民進党は共産主義者の軍門に下るのか

本日に共産主義を国是とするつもりなのか

民進党と手を組んだ共産党は傲慢な本音を語り自衛隊を殺人兵器とし、藤尾保史政策委員長自衛隊予算を「人を殺すため」の予算だと発言。全くの捏造を公共電波に乗せた、自民はすぐさまその重大発言に対し取り消し要請をなしたが共産はこれを拒絶。山尾志桜里民進党政調会長は共産党への配慮からかノーコメント。民進党と共産党との野党共闘はこうして常に日本人の常識から乖離し左の運動へと引張られていくのだ。これに対して自衛隊の存在が日本人の平和的生存権を守るかけがえのない手段だと知る国民からの声が大きく広がり、終には共産も発言撤回をなすに至った。しかし、共産党の基本認識は民進党の仙石由人の「自衛隊は暴力装置」発言と同種のものであり岡田氏も「野合」指摘には「どこが悪い」と開き直る。地球5周半のガソリン代問題の窮地を救い、「日本死ぬ」のメッセージを拡散した彼女の無神経や反日意識を不問にし、辞任どころか党の要職へと大抜擢をもらった山尾女史に、党の大先輩の見解を是正する発想や便宜主義のテクニクの行使などの芸当などもできようはずがない。その意味では彼女は容共民進党の原理主義者なのである。

容共主義による国家崩壊の前例は中国に既にあるではないか。蔣介石が西安事件により張学良の手に落ちて国共合作に

走ってから、すぐに戦争を仕掛けた歴史を見るべき。盧溝橋事件を引き起こし日中両軍の戦端を開いてすぐに上海への攻撃を始めた。むろん勝ると踏んでの行爲だったがあに凶らんや、日本兵の大反撃に阻まれ西進、終に首都南京放棄に至る。我が国が連戦連勝の戦いの中原爆投下を契機に終戦。戦勝国側にあつたはずの政権はすぐに毛沢東との闘いに直面。大陸を放棄し、台湾へ逃れるしかなかった。幸いこの地は日本の真摯な統治の果実を謳歌する豊かな地へと変貌を遂げており、占領軍としての特権をフルに生かして全土掌握。武力統治をなすことができたが、大陸はすでに共産党の手に落ちてしまい、2度と大陸に戻ることもなき流浪の民となる。軍を掌握していたとはいえず統治してはすの台湾も台湾人の台湾を求める台湾民進党に統治権を渡すことになった。

2016.06.27
やはり教育は捨てがたし

大きな責務の切りがたつたのかもしれない。靖国神社の参拝を済ませ突き動かされるものがあつた。

県内外外国人地方参政権反対決議運動・名古屋の中国領事館売却問題の決着や台湾六士先生の合同慰霊祭の開催、昨年度の岡崎悠紀齋田一〇〇周年奉祝国旗配布、今年の建国記念の日制定五〇年での県内一〇会場奉祝祭開催と、安倍総理夫人を講師にお迎えしての岡崎奉祝会のお手伝い。神武天皇二六〇〇年祭への国旗提供など。それ以前にも田母神閣下の全国講演会のお手伝いや一色正春氏の尖閣映像放映支援と講演会支援、「映画靖国」問題とNHKクローズ

アップ現代での卑劣な強要報道、むろん、名古屋の陸軍墓地清掃豊橋の陸軍墓地清掃三ヶ根霊園の清掃護国神社の清掃奉仕、さらに祝日での岡崎市内五〇〇本国旗掲揚県内一三〇〇本掲揚など、今でも確実に継続的にお手伝いさせていただいており、愛知の多くの国思う皆さんと共にここまで積み上げてこられた。毎月の活動の報告集草莽通信も今月号で一〇〇号の区切りを迎え、教育を考える会通信(教育通信)も85号となった。

そう、まる8年が過ぎ去ったこととなる。この表題のブログに改め、書き始めてもう3000日以上。始まりは2008年3月となっている。のべ17万6千のアクセスがあり、つたない文を恥じながらもなんとか記載してきた。保守の大御所から何が「草莽」だとお叱りも受けた。生命財産をなげうつ覚悟なくおこがましい。

東愛知新聞に取材を受けページすべてを使って掲載していただいたのが私が使った「草莽」の名前のはじまりであったように思い出す。昭和60年8月25日の新聞。「天皇陛下御在位(即位)60年を考える」と題して載り「草莽塾の皆さんに聞く」と副題がついている。草莽塾とは基本三ヶ根山や豊橋陸軍墓地や豊橋公園の清掃を中心として活動。学習会も月一で開催。むろん危険な団体や組織の方は一切入れずに職場や知人教員で行っていたもの。草莽崛起は松陰先生の言葉であり、そこから頂いたもの。それから数えれば32年。岡崎高校での三島由紀夫先生の顕彰およびポテピルクラブ発足から思い出しても45年か。

その間に活動に使った金で十分家はできたのにと妻。すまん憲法改正までは。三島先生の御霊との約束なんだ。こう言いつつ続けているの今日。ここまでこの活動は思い返せばすべて国思う皆さんの後について微力を尽くさせ

ていただいたもの。そして今後も皆さんの後塵を拝しながらできることを身の丈に合った形で進めたい。

やはり国起こしは教育から。国思う活動の「拡大」はここまで。来月からは現在の活動の継続のみにして教育に力を注ぎたい。

立派な日本人の育成に尽力させていただきませう。悪しからず。

「何が「草莽」だとお叱りも受けた」

杉田氏を叱った人に申しあげたい。「お前は何様だ」と。

人が百人いたら百通りの「草莽」がある。己のみが正しいという、ケツの穴の小さい奴が保守運動をダメにするのではないか。ガタガタ言っなら、杉田氏以上の活動をしてみる。 増木

2016.06.20

3歳児までの子育ては親の責任。国児家庭援助会

今朝とある小学校訪問。ここにも二宮金次郎の像が立ち、子供らの見本となっている。校長室に案内される。校長先生はいつも明るい。教育諸資料をお渡しし、現場の参考にしていただく。

昨今の教育現場の様変わりにつきさまさまに伺うと、その大変さに驚く。この小学校に通う生徒の中に外国人は七・八〇名。この生徒らに情報伝達するために日本語以外にポルトガル語中国語の案内を作るのだそう。運動会の放送も同様、三ヶ国語でアナウンスしているという。

特に困るのはイスラム教徒、他校では礼拝堂の設置要望があったりしているのだそう。この校長は「三〇年前と大違い」と指摘されたがまさにそうでありましよう。無制限な外国人受け入れは慎重であるべきだろう。また日本語が不自由な子も、指導を学

校で行わねばならない。これも大変な作業である。

いやもっと質的な変化があったのではと校長。〇歳保育だ、やれ女性の活力利用だと、子供が母の手から年若く離れることが子供のスキップ不足を問題にされた。知人の幼稚園園長諸氏も〇歳保育などではできるだけ避けるべきとの意見なのだそう。三歳までは親元から話すべきではない。スキップ不足が情緒不安定な子供らを輩出しがちなのだと。国や県市が保育を親の手に返すべく手当を支払うようにしても親の三歳までの子供の家庭内養育を進めるべきと。大いに同感。

また、学力調査で国語力の件。外国人が多いクラスでは国語力が低いと一般的な感触があるがところがどっこい、悪いのは家庭での親子関係が好ましくない場合が多いのだそう。日本人の意識変革こそが必須なのであろう。

2016.06.18

自衛隊「職業体験」の中学生

中学2年生が昼中歩いてるので学校はどうなっているのと聞いてみた。すると職場体験の下準備で体験先を訪問して仕事内容を下調べしているという。どこまで行ったかとの聞くと市役所の隣の自衛隊地連と答える。驚くことになんと女子中学生なのであります。そして一日は豊川の駐屯地に行き、車両搭乗体験もできる喜んで話してくれた。驚きであります。時代は確実に変わっている。そう感じました。以前は蒲郡の中学で堂々と自衛隊体験をしていたのに、共産党の介入によりこれが禁止され、それ以来やれていなかったが生徒さんの自主的な申し出で希望者のみですが職場体験ができるようです。実に好ましいことあります。

夜11時、突然教え子が来てくれた。懐かしく大いに語る。様々に私のことを心配してくれる。先生が子供たちへの授業をすればかなわす成績は上がるのだから、暇なときに「天才をとって授業をされたらなど、さまざまに提案してくれ。昔の授業を覚えてくれていてこそ言ってくれるのはお世辞であってもううれしいもの。だ。考えてみるよ」と大いに喜んでお手伝いしますよとまで言ってくれれば、教育に力を注げるのでありましよう。

教育の世界で勝負するのも、本音でやりたい部分。じっくり考えていく時期なのかとも思う。

道徳が教科になりいよいよ教育現場もまともになる兆しが見える。必ず劇的に。かつて家庭科の調理実習が男子の必須になり、パソコン指導も導入された。けっか、若き男子のほとんどが料理をなすのを当たり前に思う時代も到来し、ネットの操作も若者の必須技能おなってきた。道徳も教師の指導が義務となるという事は教師が道徳を学ぶ中で、人間教育に必死になるはずである。さばれば違法となるわけだから適当な授業とはならないはず、期待していけるうであります。(左写真 杉田謙一先生)



各位・各団体等からの報告・ご意見

工28-7-12 奥中正之(広島) 第24回参議院議員通常選挙の投票結果が確定しました

1. 結果を見ますと、安倍のミックスが信任された事。
2. 憲法改正に向けた議論の進展が認められた事。

この際、最大野党の民進党に対して次の事項を要請したいと考えます。

1. 議会制民主主義の原則を尊重して貰いたい事。
- (1) 政権与党や政府の政策提議に対して、先ず反対ありきではなく、具体的な代案を提示し、与党や政府の提案より優れた点を国民に分かりやすく説明しつつ、国会での議論を爾々とすすめ、議論を尽くした上での多数決には従う事。
- (2) 「戦争抑止法制」を「戦争法制」などとする事実と異なる情報・宣伝活動は行わない事。
2. 旧社会党丸の沈没にさいして旧民主党に逃げ込んだ赤いネズミたちを一掃し、国柄・伝統を尊重する政治家により健全野党を実現する事。この際私たちが国民は、民進党、共産党が行つアンチ安倍政権のネガティブキャンペーンと、そのキャンペーンを煽る朝日新聞の報道に惑わされることなく、事実を確認する努力を怠らないようにしたいものです。

工28-7-12 UNK通信(大谷)
<http://ameblo.jp/unk117-117/>

竹島問題を仲裁裁判所へ!

南シナ海問題を巡り、フィリピンが申し立てていた仲裁手続きで、オランダ・ハーグの仲裁裁判所が昨日、裁定結果を発表した。フィリピン勝訴、シナ完敗である。これは日韓国間の戦後最も続けている竹島問題を解決するのに大いに参考になると思う。

従来、日本政府は韓国の不当を明らかにするため、ハーグの国際司法裁判所へ提訴しようとしたが、韓国側の同意が得られず断念している。韓国は国際司法裁判所へ持ち込まれば韓国側の不法が明らかになるので、言を左右して提訴に同意しないのである。仲裁裁判所は紛争当事国の同意がないと受理しない決まりだ。

今回、フィリピンが提訴した仲裁裁判所は相手方の当事国が拒んでも手続きが進められる。もともと不法なことをしているシナは最初から不参加であった。竹島問題も韓国は国際法を無視し武力で竹島を侵略し実効支配している。2002年、同裁判所はエチオピアとエリトリアの国境紛争を裁定している。また2006年、スーダンと南スーダンとの間の係争地問題の仲裁を行っている。竹島問題も十分解決の可能性が高い。

日本政府が直ちに仲裁裁判所への提訴を行うよう国民運動を起こすべきと思うが如何であろうか。

工28-7-11 中野雅明(埼玉) 鳥越俊太郎出馬に危惧する

民主党政権の時、失業が増えて新卒学生の就職がままならなかった。アベノミクスで新卒求人率が約50%増え、多くの

学生が就職できるようになった。民主党政権では超円高と太陽光発電を高価買取したおかげで電力料金が高騰、この二つが原因で工場が海外移転し失業が増えた。民主党政権は日本人を不幸にする政権だった。東京都知事選挙でも鳥越俊太郎は共産党や民進党、社民党の推薦で出るよ。だがこれらの政党は日本人の不幸を目論む政党だ。中国共産党は中国人を不幸にしている。都民がこれを見抜けるか。美濃部都政、青島都政の轍を踏まないことを祈るばかりだ。増田元岩手県知事も韓国利権には甘い様だ。市ヶ谷商業高校跡地を韓国学校に貸与する件をはくしに戻すことができるか疑問だ。

工28-7-11 四宮正貴(東京) 鳥越俊太郎の不敬言動を糾弾

平成二十一年十二月十六日の小生の「ブログ」に次のようなことを書きました。ご参考までにお送り申し上げます。ご一読いただけましたら幸いです。

○小沢一郎・鳥越俊太郎の不敬言動を糾弾する

小沢一郎は、十四日の記者会見で、天皇陛下の習近平引見問題について、「天皇陛下の国事行為、行動は、国民の代表である内閣、政府の助言と承認で行うこと。それを政治利用だとかいったら天皇陛下は、何もできない。内閣に何も助言も承認も求めないで、天皇陛下が個人で勝手にやんの? そうじゃないでしょ。内閣の一部局である宮内庁の役人が内閣の方針、決定したことにどうだこうだ」といのは、日本国憲法の精神、理念、民主主義を理解していない。もしどうしても反対なら、辞表を提出した後に言うべきだ。天皇陛下の体調がすぐれないというならば、それよりも優位性の低い行

事はお休みになればよい。」と言った。これを書いてるだけで無性に腹が立つてる。小沢という男には、尊皇精神が全くないことが明白である。まず第一に、外国からの賓客の接見は、憲法に規定された「国事行為」ではない。従って、「内閣の助言と承認」を受ける必要は全くない。小沢は記者に対して偉そうに、「君は日本国憲法を読んでるかね? ふん?」などと言ったが、小沢自身が憲法をよく読んでいないのだ。

そもそも、天皇陛下に対し奉り臣下が「助言と承認」なるものを行うという規定そのものが、不敬極まりないものである。天皇・皇室の尊厳性を侵害する憲法の規定は守る必要はない。小沢一郎の記者会見における眼つきは異常であった。小沢は尋常ではない精神構造を持っているとしか思えない。尊皇精神の希薄な人物ほど道義精神も希薄である。小沢はその典型だ。

習近平は、共産独裁国家の「副主席」にすぎない、なんでこんな人物を、神聖君主日本天皇が接見しなければならぬのか。全くその必要はない。今日の午前放送された「スーパーモーニング」(テレビ朝日)で、鳥越俊太郎氏は「天皇・皇室は税金の上に成り立っている。国事行為であるから、天皇が習近平の会うのは当然だ」と言った。これは小沢以上に許し難い発言である。私は早速「テレビ朝」に電話し、鳥越俊太郎に直接、「あなたの発言に憤りを覚える。『天皇は税金で養われているのだから、国事行為は文句を言わずに行え』という意味に聞こえた。あなたには尊皇精神が無い。しかも外国賓客の接見は憲法に規定された『国事行為』ではない」と強く抗議した。

これに対し鳥越氏は、「あなたと同じ考えではない。」と答えた。つまり、鳥越氏は、天皇・皇室を敬う気持ちは無いことを認めたのである。はっきり言って

天皇・皇室に関することは、理論理屈ではない。天皇・皇室への敬いの心、かきこみの心の無い者は、国家民族の敵である。こういう者共は、絶対に許すことはできない。

鳥越俊太郎は、逆賊であります。このよつな男を都知事にはなりません。

7-1-2 池田博義 (大阪)

共和制ではなく天皇制を戴く我が国の首都東京の最高指導者なる者に、国家最高位であられる天皇陛下をはじめとする皇后陛下・ご皇族に対し、尊崇の念もなき輩にその任に就くことは絶対に許してはならないことである。故に、鳥越何某を始めとする連中に立候補する資格はない。

H28-6-27

東京近代史研究所 代表 落合道夫 朝鮮人の日本人なりすましに注意

1. Zエヌのウン放送

Zエヌが2016年6月26日の放送で、伝統ある諏訪大社を朝鮮人の社と言いだしたという。長野県諏訪地域は縄文のピナスが出土したように古代人の遺跡が多い。古代栄えたのだろう。諏訪大社は縄文時代にさかのぼる非常に古いお社と見られている。江戸時代の記録を見てもお祭りには多くの鹿や猪が供えられておりワイルドだ。

古代日本の狩猟文化の痕跡を見ることが出来る。しかし朝鮮とは何の関係もない。何の記録もない。それどころか縄文時代の朝鮮半島には人は住んでいなかった。遺跡や遺物がほとんど見つからないのだ。そして出土した遺物には九州産の古代日本人が現地に渡航して残したと思われるものがある。朝鮮から来るのではなく逆だ。驚くだろう。

2. 人類学の原則

近年、朝鮮人が日本人は古代朝鮮人の末裔だ、と言い出した。昨年米国では米国人を使って古代史宣伝を始めた。巨大ななりすましだ。日本人はびっくりだ。しかし本来民族は言語と神話によって区別する。この点で朝鮮人と日本人はまったく異なる。半島に類似の神話や言語はない。まったく別の民族なのだ。

3. 民族なりすましのカラクリ

1) 土器模様変更の仮説

これは次の通りだ。日本列島には太古から人間が住んでいた。それが縄文人だ。縄文模様の土器を作っていたのでこの名がある。その後縄文土器の製造を止めた。すると明治時代の外人モースは人種が変わったと誤解して以降の日本人を弥生人と命名した。東京の弥生町出土の土器の模様から名付けたのだ。人種が変わるということは、弥生人が縄文人を皆殺しにしたという仮説だ。ネアンデルタール人とクロマニヨン人の交代だ。そんなことがあったのだろうか。何の記録もない。それどころか日本民族の遺伝子は縄文時代から何も変わっていないのだ。

2) 稲作伝搬の偽説

次に米作伝来を使ってこの弥生人は朝鮮人だった、という偽説をでっち上げて宣伝した。すなわち、紀元前三世紀に米作を半島から朝鮮人が持ち込んだとする仮説をつくった。しかし九州には紀元前8世紀の稲作遺跡が見つかっている。さらにそれ以前にさかのぼる可能性がある。また日本の稲は遺伝子的に南方からきたものとわかっている。それに植物の種の導入には人間はいらぬ。種まきだけだから民族移動など必要ない。日本の稲作と朝鮮人は何の関係もないのだ。

こうして、土器のデザイン変更の仮説と稲作開始の偽説から現代日本人が朝鮮人の末裔になる仕組みになっている。このお手軽の偽説が戦後小学校から日本人

に教え込まれ Zエヌで放送されている。とんでもないことだ。弥生人などはじめからいないのだ。

4. 遺伝子調査

日本民族を遺伝的に調べた人がいる。長浜浩明氏だ。彼によると縄文人の男子く色体はアイヌ、本州人、沖縄人で共通だ。しかし半島、大陸の人間とは異なっている。日本人は大陸の民族ではなく、北方の沿海州から南下してきた民族なのだ。同氏の「日本人ルーツの謎を解く」展覧社を読んでほしい。

5. 古代史

古代朝鮮人は、支那人によると古代支那人の難民、原住民、古代満洲人の南下したものが混ざり合った人種だということ。とにかく日本人とは何の関係もない。なお新羅四代の王は日本から来た人だといふ。12世紀の朝鮮高麗の正史に記録されている。その後新羅は消滅してしまっただが、また朝鮮南西部は神功皇后の紀元4世紀の出兵もあるように、約四百年にわたり日本人が支配したようだ。現地に日本よりも新しい前方後円墳が多数残されている。支配者が日本人であった証拠だ。古代の満洲国だ。このため、秀吉の朝鮮出兵では朝鮮王は日本人が古代の領土を取り戻しにきたと思われたい。

6. 朝鮮人のなりすまし習性に注意

朝鮮人はなりすましで生き延びてきた民族だ。名前は見ての通り支那人を偽装している。日本に来ると日本人を偽装している。平気だ。韓国では美容整形が盛んだがこれは美男、美女になりすます行為だ。そこには日本人が大切にす誠がない。これも朝鮮民族が日本民族と大きく違う所だ。

朝鮮人のなりすましはこのように壮大である。日本人はポイントを押さえきちんと否定しよう。われわれは教科書をはじめ対外発信など真剣に対応するときが来ている。

7. 総務省の監督義務

Zエヌはこれらの反論を放送すべきである。Zエヌは公共放送ではなくなっている。総務省はNHKに勝手に有害な報道をさせてはならない。

June 21, 2016 村田春樹 S学会の選挙戦術

夏がくれば思い出す。それは6年前の夏。参院選の真つ最中の出来事でした。当時私は関連会社に向。閑職をこれ幸いと、維新政党新風の候補者(当時は瀬戸弘幸氏)のポスターを貼っていた。そこへ、私が某県支社長だった当時の職員真智子さん(仮名・私より10歳くらい上)から電話が鳴った。真智子さん「支社長！お久しぶりのお元気ですか。」村田「おお！元気だよ。君は？」真智子「元気ですよ。ところで、今回の参院選、〇〇候補お願いね。」

真智子さんは国政選挙の度に公明党の候補への投票依頼の電話をかけてきていた。私も慣れたもので、村田「了解したよ、頑張つて。ところであなたはいつも選挙の度に電話してくるが、一体何人くらいに電話しているのかね？」真智子「今回支社長で丁度五百人です。」村田「ええーっ！」「ここ五百人！？まじかよー！あなたはの学会で表彰されるんじゃないの。」真智子「トントンモない。私は普通です。もつと凄いや会員大勢いますわ。では忙しいのでこれ。」私は愕然としました。彼女はの学会の熱心な信者。選挙ポスターを貼るなんて、お茶のこ、財務と称してかなりの金額を寄付(上納)している筈である。電話は多分平和会館の電話機を使用しているとしても、五百人は凄いや！私は恥ずかしくなりました。日頃政治向き話題を、

大きな口で語っている自分自身、いざ国政選挙となったら、一体彼女の何分の一の活動だろうか。

およそ、世の中選挙でしか変わらない。これが現実。その選挙に際して、日頃活動家を自ら任じている私は恥ずかしかった。票を集める。ポスターを貼る。献金する。この三つを少しでもやるのが無ければ政治を語る資格などあるわけではない。自らの私財を擲って立候補した東京都選挙区の鈴木信之氏、北海道選挙区の佐藤和夫氏。お二人の壮挙の前では私はうなだれるしかない。今年も選挙がやってきた(二回もある!)自らの思想信条に従い、票を集め、ポスターを貼り、僅かながらも献金して(勿論お二人に)恥ずかしながら微衷を尽くしたい。

今度も生まれ故郷杉並区周辺にポスターを数百枚貼る予定である。あのの学会の眞智子婆さんも某県で貼っていることだろう。私も負けずに老骨に鞭打って汗を流したいと思う。

私はいつも、「汗」か「知恵」か「金」どれかを出せ。と言います。そして「口」は出すな!と。 マスキ

II28-6-29 西村隆 (兵庫)

民主主義と衆愚主義とは紙一重

昨日、三宮で辺野古反対キャンペーンをしていたので、ならばどうするのかと問うた。すると、沖縄に基地は不要と。中国の進出は?と疑問を呈すると、その心配はないと。ならば南沙海は?と聞くと問題ないと。加えてかの国は戦争しかけた過去はないと。歴史捏造の国ではないかと問うと、捏造は日本だと。南京事件を持ち出しながら、事件の年を1941年だと、日本はドイツと同盟関係にあったとか。拳げ句の果てに隣の女性に虐殺のフィルムを見たのだと。余り

の無知に怒りを越えて呆れました。如何に言論、表現の自由があるとは言え、許されるべきなのではないか? 民主主義と衆愚主義とは紙一重だと痛感。こんなバカはなんとかならないのでしょうか?

June 11, 2016

日本の未来を考える会 高橋利幸

「青葉慈蔵尊」について

勿論、日本人と日本人を貶める前にこれ位は読んでほしいもお勧め致します。

「青葉慈蔵尊」由来記

昨日、知人から掲題の小冊子が送られてきました。埼玉県大宮市にあるこの慈蔵尊の由来記の表紙にはこう記されています。

「あなたは知っていますか。赤十字看護婦として従軍し、終戦後に異境の地満州で悲しくも壮絶な自決を遂げた大和撫子たちのことを。何故に、若き乙女たちは死を選んだのかを。何故に、この慈蔵尊が建立されたのかを」

従軍看護婦団の悲壮なる自決

昭和20年8月9日、ソ連軍は日ソ中立条約を一方的に破り、突如満州の日本軍民に襲いかかりました。満州東部国境に近い虎林の関東東野戦病院に勤務していた堀喜美子婦長以下34名の従軍看護婦は、急遽移動を命ぜられ、1週間の強行軍の後、当時の首都新京、(いまの長春)に辿り着いた。その日、8月15日、ここで日本の降伏を知った。 新京には中共軍が入ってきていた。彼女たちは新京の第八紅軍病院で一ヶ月二百円の給与で勤務することになった。ともかく帰国の望みを抱きながらその年は暮れた。明けて21年の春、城子溝にあるソ連軍の陸軍病院第二赤軍救護所から

3名の看護婦を応援を派遣せよと言う命令が婦長に伝達された。命令には期間は一ヶ月とあり、月給は三百円支給となっていた。婦長と軍医は相談の上、仕事も出来、気も利く優秀な大島はなえ、細井たか子、大塚てる、の三人を選んで送ることにした。

予定の一ヶ月を過ぎても三人が帰ってこない。そのうち、更に3名の追加応援依頼が来た。止むを得ず、荒川静子、三戸はるみ、澤田八重子、の3人を第二回目の応援として送り出した。ところが、二ヶ月経ったが誰一人帰ってこない。そこへ又第三回目の命令である。一ヶ月という約束など守る気はないらしい。憤慨したもの、戒厳令下の新京で占領軍の命令を拒否すれば、新京在住の邦人3百人に危害が及び危険性があった。

もうこれきりと申し合わせて、しぶしぶ井出きみ子、澤本かなえ、後藤よし子、の3名を送った。ところが、厚顔無恥、まだしても第四回目の派遣を申し込んできたのだ。しかし敗戦国民の哀しさ、どうすることも出来ない。やはり、応じる他ないと、3名が選ばれた。それは6月19日土曜日の夜であった。月曜日の午前中に出発する事になった。

その夜の8時過ぎに堀婦長が病院を出ようとしたとき、扉口によるめき倒れ掛かってきた傷だらけの女性がいた。日本の振袖をイブニングドレスに仕立て直した肩も露な洋服をまとい、裸足で桃色の繻子の靴を片方だけ確りと握り締めている。落ち着いてよく見ると、何と第一回に派遣した大島はなえ看護婦ではないか。慌てて病室に運んで手当てをしたが瀕死の状態である。しかし、聞くだけのことでは聞かねばならない。その時の状況を堀婦長は次のように語る。

「大島さんを揺すぶって起こし起こしして聞いてみますと、ほとんど意識を失いかけて臨終の中で彼女は次のように語ったのです」

「私たちはソ連の病院に看護の応援にいったはずですが、あちらでは看護の仕事させられていたのではありません。行ったその日から病院の仕事は全然しないで、ソ連将校の慰みものにされているのです。殆ど毎晩三人も四人もの将校が代わる代わるやってきて私達を慰みものにしているのです」「次々と同僚の人達が送り込まれてくるのを見て、何とかして知らせなければ死んでも死に切れないと考えましたので、嚴重な監視の目を盗んで脱走してきました」というのです。聞いていた私(堀婦長)をはじめ、居残っていた病院の人達も暗澹として息をのみ、激しい憤りに体が震えまじり脱走したとき、後ろから撃たれたのでしよう。11発の銃創の他に、背中に鉄条網をくぐったかすり傷が十数本、血を吹いて、ミミズ腫れになっています。

どんな危険を冒してきたかは、その傷が何よりも雄弁に物語っていました。身を挺してでも次の犠牲者を出したくないと決死の覚悟で脱出してきた大島さんの話に、私は涙が噴水のように流れて止まりませんでした。可憐な22歳の乙女は命が消える間際に、魂をさく思いで叫んだのです。「婦長さん!もう誰も送ってはいけません。お願いします」と。その夜、10時15分、大島さんは息を引き取りました。

翌20日、満州の慣習に従い、土葬の野辺送りを済ませ、髪と爪をお骨代わりに箱に納め、大島さんには懐かしい三階の看護室に安置しました。その夜は一同遅くまで思い出話を花を咲かせました。明るく月曜日出勤してきた婦長に、待ち構えていた人事課長の張宇者が「もう9時を過ぎてているのに一人も出勤してこない。患者がたくさん来ているのにどうするつもりだ」と怒鳴りつけられた。婦長は、ハツとして夢中で三階の看護婦

室へ駆け上がった。婦長はこう語る。「入口には一同の靴がきちんと揃えてあり

ました。障子を開けると大きな屏風が逆さまに立ててあります。中から線香の匂いがしました。部屋に上がってみますと、22人の看護婦がズラリと並んで眠っています。しかも満州赤十字看護婦の制服に制帽で、めいめい胸の辺りで両手を合わせて合掌しているではありませんか。脚は紐できちんと縛ってあります。あわてて一人に触ってみました。もう冷たくなっていました。(中略)

二列になった床の中央には机を持ち出し、その上に昨日各自の手でお巾をしした大島はなえさんの遺髪を飾り、お線香と水が供えられてありました」。

彼女達の遺書にはこう書かれていた。22名の私達が自分の手で命を断ちますこと、軍医部長はじめ婦長にもさぞかしご迷惑と深くお詫び申し上げます。私たちは敗れたりとはいえ、かつての敵国人に犯されるよりは死を選びます。たとい命はなくなりましても、私どもの魂は永久に満州の地に止まり、日本が再びこの地に帰ってくる日、ご案内いたします。その意味からも、私どもの亡骸は土葬にして、この満州の土にして下さい。

この後に全員の名前が夫々の手で記された。病院からこの非業の死を遂げた人々に贈られたものは小さな花束一つ。誰にも金はない。遺書の通り土葬にしようとしたところ、それではあまりに気の毒と同情した張人事課長の供養によって火葬に付し祖国へ帰れることになった。22名の遺骨を祀って49日を迎えた日、堀婦長はお供えの饅頭を作る粉を買いに出かけたとき、たまたまミナカイデパーの地下ダンスホールに、あの三回に分けて派遣された看護婦達がダンサーをしているのを見た。早速訪ねてゆくと、6人の看護婦達は直ぐに出てきた。肌も露なドレスでいかにもナイトクラブのダ

ンサー然としているが、顔は病人のよう

に蒼白である。「こんな所でこんな事をしていないで、早く私どものところに帰って来て」と強く勧めたが、俯いて肩を震わせて泣く彼女達は、首を横に振るばかりである。たまりかねた婦長は、「あなたたちはこんな事を好きでやっているのね。そこまで日本人も墮落したのか」と罵って三つばかりひっぱたいた。すると、みんな涙ながらに言うには、

「婦長さんがそこまで私たちのことを考えて下さるなら申し上げます。私たちはソ連の病院に送られた時から、毎晩7、8人のソ連の将校に犯されたので、直ぐに国際梅毒を移されてしまいました。私も看護婦です。今ではだいぶ悪化していることが分ります。こうなるとは自分の体は屍に等しいのです。どうしてこの体で日本に帰れましょう。この性病がどんなに恐ろしいかも十二分に知っています。私はこの性病を一人でも多くのソ連兵に移してやるつもりです。今では歩行も困難な状態ですが、それでも頑張って一人でも多くの客を取ることにしています。これが敗戦国のせめてもの復讐です」。

このような犠牲を後に、23年暮れ、堀さんは22人の遺骨を抱き、幼い二人の子供を連れて、多くの辛酸の末、死線を越えて漸く祖国に辿り着いた。それからがまた大変であった。日本赤十字を始める国の関係の何処かで祀ってもらいたいと奔走したが、いずれも冷たく拒否された。幾多の紆余曲折を経て、昭和31年6月21日、「青葉慈蔵尊」の開眼供養が行われた。

埼玉県大宮市の墓地青葉園の理事長吉田亀治氏のご好意で、この青葉園の一角に地蔵尊を建立してくれる事になったのである。自決した22名の乙女達の遺骨はその台下に納められ、非業の運命を共にした同僚達の霊も併せ祀られた。

平成17年12月2日

128-6-29

数秘書と長門の地戸護霊堂顧問近藤将允 舛添要一都知事の不始末問題

いま舛添氏の記者会見が行われている。勿論舛添氏の公金使用の是非に関する問題がテーマである。舛添氏が公の金で買ったものが、家族との遊興費、豪華な外食、趣味の買い物、果てはその他の日用品にまで及ぶという過去に前例のない卑しい行状が明るみに出たものである。当然厳しく追及されて然るべきであり、その事に何の異論もない。

しかし金の問題以外にもうひとつ、追求しなければならぬ大きな問題が看過されていると言いたい。考えようによってはこちらの方がより重大だと言えないこともないと思っている。しかしながらテレビも新聞も都民(国民も)も、少しオバーに言えば公金問題一色で、誰ももう一つの重要な問題に対する追及の声を上げていない。舛添氏は言うまでもなく都知事の職に在る。

都知事の最大最高の責務は、1300万都民の安全・安寧・命を守ることにある。災害列島日本にあって特に関東地方は幾つものプレートが集中し、マグニチュード7以上の巨大地震が言われているものだけでも、東京湾北部地震M7.3、多摩直下地震(M7.3)、立川断層帯地震(M7.4)、元禄型関東地震(M8.2)と幾つもあり、これらが発生した場合の甚大な被害想定も東京都は発表している。

文科省地震調査委員会(2004年)によると、南関東地域でM7クラスの地震が発生する確率は、30年間で70%と推定されている。つまり明日地震が発生してもおかしくない状況にある。舛添氏が湯河原の別荘で足を延ばして

風呂に入り寛いでいる時に、もし地震が発生したらどうなるか、それは熊本での地震を見れば分かることである。道路の損壊、土砂崩れ、橋の崩落などで舛添氏の帰京は、ヘリでも飛ばさなければ不可能なことは明白である。舛添氏は都知事として、当然このことは承知して

いるはずであり、承知していなければならぬ。知事になるずっと以前のことであるが舛添氏はテレビで、米国の FEMA(連邦危機管理庁)を引き合いに、このような組織を設立し訓練を積んでおくことが危機管理の要諦であると訓示を垂れていた。知らないとは口が裂けても言えないのではないか。その都知事が毎週末、公用車を利用して別荘に赴くのは、都民を守る危機管理のトップリーダーであることの自覚・認識が欠落していると言われても仕方のないことである。言い換えれば舛添氏は、知事としての最大の責務を放棄したに等しい。

都議会では共産党が百条委員会の設置を要求したと言われているが、今日の某テレビ局でコメンテーターが、百条委員会は地方自治法により、公務に関するものが対象であるから、今回の公金問題は対象外であると言っていた。確かに地方自治法第百条は、「当該普通地方公共団体の事務に関する調査を行い・・・」となっている。

地方公共団体のトップである知事の事務は多岐にわたるが、何度も言うように危機管理に主導的役割を果たす事務が最も重要であることから、この観点に立っての百条委員会の設置要求は可能ではないか。舛添知事の無自覚・無責任も許されないが、お金の問題にしか目が

いかない政治家、メディア、国民(都民)の対応も、危機管理の最たるものが国防であることを思えば極めて深刻であり、等閑視などしておれない問題であると思っている。

今日の新聞報道・ニューズ等

の月18日(土) 朝日新聞デジタル 名古屋市内の国有地、中国総領事館に売却せず 財務省

財務省が、在名古屋中国総領事館(名古屋市中区)の移転候補地だった同市北区の国有地について、売却しない方針を中国側に伝えていたことがわかった。2010年の尖閣諸島沖漁船衝突事件以降、日中関係の緊張が続き、財務省が判断を保留していた。日中関係改善の動きの遅さが影響した形だ。

対象の国有地は、同区名城3丁目の約8千平方メートルの公務員住宅跡地。財務省が10年4月に売り出し、同年秋にも売却先が決まる予定だったが、同年9月に尖閣沖の漁船衝突事件が発生。保守系団体の売却反対運動や中国への抗議行動が強まり、河村たかし名古屋市長と大村秀章愛知県知事が11年3月、国に對し売却の凍結を申し入れていた。

河村氏と名古屋市議会は今年3月、この土地について「良好な住環境の保全」に努め、市民が広く利用できる文教地区とすることを決定。治安上の不安があることを念頭に、中国側への売却を認めない姿勢を鮮明にした。

2016.06.18 草莽の記 最終的に財務省の決断下る。名城住宅跡地の中国への売却中止決定

最終的大勝利 皆様にご感謝いたします。本日の朝日新聞一面に中国領事館に売却せず 名古屋市内 移転候補の国有地 財務省方針と題する記事が載った。

8年間にわたる愛国者の活動が財務省を動かしたのである。愛知の保守活動の根幹にあったのがこ

の問題。8年前はもう払い下げが確定しており、どの企業が舗装をしどこが何をやるかまでおおよそ決定していた。段階で中日新聞に売却予定記事が載った、決して売却を許してはならない。僕らはすぐさま反対の活動に入ったのであります。まずは誰が推進しているのかの特定をし、某市議と判明したため撤回を要請。しかし、名古屋市民ではないやつが何を言うとの非難の言葉を浴びせられ、ならばこのブログにて反対の主張をし、反対署名集めに入ったのであります。YさんとPAAを組み、この市議に翻意していただき、売却反対署名に加わっていただいたのも大きな転機でした。

署名文面は会員のMさんをお願いして一部修正は1さんにしていただき始めました。さらに桜井よしこ先生にお会いした際に私の発行する「愛知の教育を考える会」(当時は岡崎の教育を考える会)通信をお示しし、協力要請。その直後に週刊新潮誌上にてお書きいただいたので活動は一気に拡大。一グループのマイナーな主張が全国へ広がることになったのでした。その後、いかに署名を増やすかに苦慮し、敬愛する元民社党委員長塚本三郎先生に「杉田の人物保証」の文面を書いていただき、それをもって多くの団体に呼びかけ署名を集めていただきました。もはや時間がない。私は毎日のノルマを20名とし、毎月の集計を通信にのせ、良識ある皆さんの声を集めたのでした。同時に、名古屋でも有力団体の皆さんがこの運動に特化した団体 反対する会や 考える会を立ち上げてくださりました。特に頑張り日本行動全国行動委員会愛知県本部の皆さんのご活動は実に熱心でありました。私の集めた署名も反対する会にお渡しし、総計は6万筆を超え

る数になったのです。

ワシントンポスト紙の取材を受け記事にしていただいたり、フランステレビ2の放映もなされたりと大きな広がりも生まれました。河添恵子女史の本にも取り上げていただいたりして少しずつ運動が広がりを見せたのです。

今年3月には終いに名古屋市議会においてこの地を文教地区とする決議がなり、そして国(財務省)が最終的に中国への売却をしないと決め口頭ながら伝えたとの記事になったものです。

市会議長の藤沢先生はじめ多くの市議の先生、名古屋市長様、民間では中核を担ってくださった頑張り様、作る会の皆さま他署名をお寄せくださったすべての皆さんに深く感謝いたします。

ただ、新潟では小学校の土地は売却阻止ができたのに、秘密裏に川沿いの500坪が売られてしまった例もあります。チャイナの力は侮るわけにはいきません。あくまでウイーン条約に基づき対等な関係を守り抜かねばならないのです。日本が向こうで購入できない以上、日本も払い下げに應じることはしてはならない。

全国の領事館で売却を止めえたのは愛知のみ。これは愛知県民の良識に負うところが大きい。しかし場所を変えて問題発生となるかわかりません。市民の力は不当な払い下げがなされないよう注意を怠ってはならない。こう思います。

2016年の月14日 やまと新聞 穴田旭川市議、教科書贈収賄問題で 旭川市の対応を追及

旭川市は、「教員の不祥事の再発防止については、これまでもあらゆる機会を通し注意を喚起してきたが、今回の事案により、教育に対する信頼が著しく損なわれる事態となっている。教育行政は、市民の信頼の上に成り立つものであり、

教員一人ひとりが服務規律の確保や法令遵守について高い意識を持つことが必要であり、改めてその趣旨を徹底するため、なお一層コンプライアンス意識を喚起してまいりたいと考えている」としたものの、事件再発防止のための、旭川市教育委員会及び教員の教科書会社への天下り 実態調査については、「発行者への教員の再就職については、退職した教員が持つ教科指導の知識を発行者として活用したいという思いと、これまで培った研究 成果等を生かしたいという教員の思いが適合した結果であって、このことにより教科書採択に特段の影響をもたらすものではないことから、今回の事案を受けての再就職の実態把握は考えていない」と述べ、天下り実態調査を実施する意思がないことを明確に示した。穴田氏は、今年度、小学校道徳の教科書検定が実施されることについて触れ、「道徳教育が必要なのは、小学校の児童生徒に『道徳の教科書』をつくる教科書会社と、それを教える教員そのもの、という結果となった。『不適切な行為』と決別できるのか」と述べ、旭川市の不正行為撲滅への決意を明らかにするよう促した。

旭川市は、「今年度は、小学校の道徳の検定が実施され、来年度は採択が行われることとなっているが、今回のような不適切な事案が起らないよう、既に文科省や道教委からの通知により、各学校及び教員に対して、教科書採択の公正性・透明性の確保について周知している」としたうえで、「今回の事案を重く受け止め、これらの通知の趣旨を十分に踏まえ、校長会議をはじめとした各種会議や教員研修の機会なども活用し、教科書採択において制限されている事項やその仕組み等について、教員に対してさらなる周知徹底を図るとともに、教育委員会においても、選定委員会の委員の

選任に当たっては、発行者との関係について聴取又は自己申告を求める等、特定の発行者と関係を有する者が関与することのないよう留意するなど、これまで以上に、教科書採択の公正性・透明性の確保に万全を期していく」と述べた。

穴田氏は最後に、「教育の目的は、教育基本法に示されるとおり、人格の完成と、心身ともに健康な国民の育成にある。その根底には、道徳や倫理、遵法精神が不可欠である。しかし、今回の不正は、働きかける教科書会社側のモラルもさることながら、金品を受け取る教員側のモラルのなさは、それ以上に問題といわざるをえない。本来、子供たちが模範とすべき教師への信頼、教育行政の信用を揺るがす背任行為に他ならない。この他、学校指定の制服やシャージ、運動靴や、修学旅行等の関係業者との関係など、同様のケースは他にもあるとの疑いもある。再発防止の鍵を握るのは教育委員会と教員にある」としたうえで、旭川市教育長の見解を求めた。旭川市教育長は、「今回の事案により、教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせる事態に至ったことについては、誠に遺憾だ」としたうえで、「今回の事案は、採択勧誘のため

の宣伝行為等が過熱したことなど、発行者の法令遵守意識の欠如に起因するものであるが、一方で、教員の法令や制度に対する理解不足も要因のひとつであったと考えている」と述べ、市側にも問題があったことは認めつつも、問題発生の原因は教科書会社側にあるとする見解を繰り返した。

2016.6.15 産経
卒業生を訪ねて反安保ら渡す
東大阪の市立中女性教員を口頭注意 保護者「行き過ぎだ」

大阪府東大阪市の市立中学校に勤務す

る60代の女性教員が今春卒業生宅を訪れ、卒業時に書いた作文を返却するとともに安全保障関連法への反対署名を求めらるる手渡していたことが分かった。市教委は「軽率であり、教員の政治的中立性に疑念を抱かせる恐れがある」として口頭で注意し、女性教員も市教委に「今後は同様の行為を行わない」と陳謝した。市教委によると、女性教員は今年1月、成人式を迎えた同校の卒業生が開催した学年同窓会に出席。卒業生たちが未来の自分に向けて書いた「20歳の自分に」と題する作文を返したが、欠席者も多かったため女性教員が後日、欠席者宅を訪れることになった。

女性教員は春休みに入った3月下旬から4月にかけて、卒業生約30人の自宅を訪問。このうち自分が担任を務めるなどし、保護者とも面識があった二十数人の自宅で作文を返却する際、一緒に安保関連法への反対署名を求めらるる手渡した。保護者が応対することもあれば、卒業生が受け取ったケースもあったという。市教委によると、ら渡は安保関連法に反対している全日本教職員組合(全教)が作成したものだった。

女性教員によると、ら渡の手渡しは、保護者から市教委に「行き過ぎではないか」と匿名の電話が寄せられ発覚。女性教員に確認したところ、事実関係を認め、市教委は女性教員のほか、監督者として同校校長を口頭注意とした。

9月10日(金) 産経新聞
安保法、児童に反対署名要求 共産党運動員「戦争、親死ぬ」

東京都足立区で昨年6月、路上で署名活動をしてきた共産党の運動員が帰宅途中だった複数の児童に、「お父さんやお母さんが戦争で死んだら困るでしょ」「爆弾が落ちてきたら嫌でしょ」などと話しかけ、安全保障関連法案への反対署名を求めたことが9日、分かった。同区の共産区議団側は「行き過ぎだった」と非を認め、保護者に謝罪した。

区教育委員会などによると、昨年9月に成立した安保関連法の国会審議が続いていた同6月下旬、学童保育から別々のグループに分かれて帰宅途中だった区立小学校の児童計約10人に、地元商店街の路上で安保関連法案の反対署名活動を行っていた運動員が相次いで声を掛け、署名を求めた。

児童は主に1、2年生で、署名に反応した児童もいたが、「(戦争になれば)お父さんやお母さんが死ぬ」と言われ、帰宅後に恐怖で泣いていた児童もいたという。保護者から相談を受けた学校側は教員を現場に向かわせ、駆けつけた保護者とともに抗議したところ、運動員は謝罪し、署名活動を取りやめた。

共産区議団によると、運動員は近寄ってきた児童に先の大戦の沖縄戦などを説明した上で「戦争になったら爆弾が落ちてくる。困るでしょ」などと言って反対署名を求めたという。

運動員を知る共産の男性区議は「組織的行為ではない。署名を集めたいという気持ちが高じてやってしまったのだと思うが、やり過ぎだった」と話している。

一方、区教委は「子供は『両親が死ぬ』と言われれば怖くなって署名する。本来の署名活動の目的から外れたものだ。一定の知識を持った段階になってから是非を判断させるべきで、子供への署名活動には配慮してほしい」と批判した。

9月5日(日) 産経新聞
北海道の市立中、職員室に「日の丸」など反対の政治的ポスター

北海道北見市の市立中学校で、職員室の掲示板上に日の丸・君が代の「強制」反対などと印刷されたポスターが張られ、道教育委員会などが今年1月に政治的中立性が保たれていない疑いがあるとして実態調査に入っていたことが4日、分かった。ポスターは調査前にはがされ内容も「特定政党を支持するものではない」として処分は見送られたが、専門家は「教育の中立性を侵すことにつながりかねない」としている。

問題のポスターは1月、同校職員室の掲示板上に張られているのを外部から指摘され、道教委と北見市教委が調査に着手した。

道教委によると、調査時にはすでに校長の指示でポスターは撤去されていたという。ポスターには「日の丸・君が代強制反対」のほか、垂直離着陸輸送機M22オスプレイの配備反対を訴える「OSPREY NO!」憲法違反ゆるさない!」「戦争させない!」などの文言が印刷されていた。

掲示板上は労働組合に貸与された専用のもので、道教委や同校は北海道教職員組合(北教組)に所属する教員がポスターを張ったとみているが、詳細は不明。道教委は今回のケースについて、「特定の政党を支持、反対したのではなく、組合の方針を示したものの、政治的中立の逸脱には当たらない」と判断し、不問とすることを決めた。

校長はポスターを撤去した理由について、産経新聞の取材に「政治的中立が守られていないことを指摘される可能性があるか」と語った。一方で、「また同様のポスターが張られても許可することになる」としている。

政界・各議会からのレポート

工28-7-11 大阪市会 今井篤
FB ちゃんと発信し続けようと思えます。

どこどこで活動しましたとか、どこを見に行きましたみたいな日記的なものじやなく、何に気づき、何を学び、どうしていきたいか。何を社会に伝えたいかなぜ、そう思ったか。

一つは、さかい先生の選挙応援の中で学生たちが企画してくれたイベントです。政治家は一般的に「胡散臭い」イメージ。事実どうなのかもしれません。だけど、直接話した学生たちの中には、イメージが変わったと言ってくれた人たちもいました。直に接して会話をしている心を通じ合わせなければ伝わらないことがある。一度でも接したことがある人とそうでない人は、政治への関心は大きく変わってくるのだと思います。本当は自分たちを取り巻く環境に直結している政治。政治とは実はとても身近なものなのです。実際に、学生たちと触れ合っただけで私学無償化に救われたという声をいくつもいただきました。

維新の改革・政策に直に恩恵を受け、感謝を感じている若い世代は少なからずいます。きつと、10年後、20年後の将来は大きく変わっていると思います。法律や条例など、社会のルールを決める立法機関が議会であり、行政のチェックをするのが議会です。議会の質を上げていくことは、社会の質を上げていくことにつながります。議会の質を上げていくには、より多くの人に政治への関心を持つてもらわなければなりません。政治が身近な事柄、身近な関心事になれば自ずから一人一人の政治への知識も上がっていくと思えます。

無関心を責めるのではなく、「なぜ、無関心なのか」を追求し、関心を持ってもらう努力をし続ける必要があるのです。だから、SNSがきっかけになって、なんらか興味を湧いてくる人が1人でも2人でも出てきたらいいなという期待を込めて発信を続けたいと思います。

もう一つは、選挙結果を受けて志や政策や人格だけでは乗り越えられない大きな「壁」を感じることができたからです。いくら志があっても、いくら政策力があっても、いくら能力が高くても、いくら人格が良くても、それだけでは越えられない大きな壁が世の中には存在します。これは厳然たる事実です。多くの人に「伝える」形で「伝える」努力をし続けなければならぬと強く感じました。

大阪選挙区では「浅田均」、「高木かおり」の両名が当選を果たしました。これは素晴らしい結果です。しかしながら、比例区で応援をしていた「さかい良和」が落選をしたことは改革政党としては非常に大きな損失です。都構想の住民投票での敗北では「橋下徹」を失い、今回の参議院選挙では「さかい良和」を失いました。大阪維新の会の創設メンバー2人が政治の表舞台から去ることとなってしまいました。これは、本当に大阪維新の会にとっても日本の将来にとっても大きな損失です。失ったからこそ、つなぎ続けなければならぬ。改革の火を。本当の意味で10年後20年後の国の将来を考えた政治を。

東淀川の座談会で参加者の方が述べられた言葉が忘れられません。

「本物の政治家とは自分を殺してでも市民のため、国民のために尽くすもの。」「まさしく、「橋下徹」と「さかい良和」は本物の政治家でした。2人の覚悟・信念

に直に触れた経験は何物にも代えがたいです。引き継ぎ、体現していかなければならないと強く感じた次第です。反省すべきことは反省し、信じる道をまっすぐ歩んでいきたいと思えます。

平成28年6月21日(火)

西村眞悟HPより 敵はコミンテルン戦略と付和雷同の日本人

今こそ日本を、守る時がきた。参議院選挙が近づいて、我が国を取り巻く内外の情勢を見れば、ひしひしと「日本を守らねばならない」と感じる。以下、簡潔に指摘する。

選挙が近づくと街頭で目に付くスローガンは、反戦平和、戦争法廃案、憲法違反、9条を守ろう、そして、反ファシズムである。

先日夕方、埼玉県の大宮駅前、旗を立てて安保法制廃止の街頭活動をしてきた中年の女性たちが胸に巻いていたゼッケンには、「反戦」と「反ファシズム」のスローガンが書いてあった。そして、政界では、共産党と民主党と維新が合体した民進党および他の党が安全保障法制を廃止するための共闘を組み、参議院選挙において、共産党が候補者を下して民進党候補者を一丸として支援する体制を整えつつある。

この街頭と共産党の動きを観て、我が国の現代史を振り返る者は、正式名称共産主義インターナショナル、通称コミンテルンもしくは第三インターの日本を共産化するための人民戦線方式が、今、我が国において巧妙に展開されていることを見抜かねばならない。

コミンテルンは第一次世界大戦後に結成されたソビエトを中心として世界を共産化するための国際組織である。そのコミンテルンもとて現在の中国共産党も

日本共産党も、「コミンテルンシナ支部」や「コミンテルン日本支部」として結成されたのだ。そのコミンテルンは日本を共産化するためにはまず天皇を廃止して日本国民から忠誠の対象を奪うことが必要であるといううえで、一九三五年(昭和十年)八月、次の第七回大会決議を行った。

(1) 攻撃目標を日本、ドイツ、ポロンドとする。そのためにイギリス、アメリカを牽引してフランスというブルジョア国家と連携して各個撃破する。

(2) 日本の共産化の為に中国を重用する。

(3) 気付かれることなく大衆を傘下に呼び込み、またブルジョア機関に潜入してそれを内部から崩壊させる為に、反ファシズムや反戦思想を掲げて統一戦線・人民戦線を徹底的に展開する。

説明は知らない。私は直感的に、現在展開されているのは、コミンテルン決議(2)と(3)であると観た。昭和十年のコミンテルン決議など、古色蒼然たる過去のものであると言っただけ。そもそも、次の二例だけを挙げても、コミンテルン戦略は現在も日本で生きていることを知るべきである。つまり、現在の日教組が教育機関の中でしていること、村山富市や菅直人が、国会内に長年生息して総理大臣にまでなったこと、これらはすべて、コミンテルン決議(3)のブルジョア機関の中に潜入して内部から崩壊させる戦略の成功ではないか。また、このコミンテルン戦略は、昭和四十年代の大学紛争の渦中で我が国の大学を崩壊寸前を思わせる機能不能に陥れて大成功をおさめている。その時に、学生として大学において、扇動したは付和雷同していたのが、菅直人や鳩山由紀夫や共産党幹部や、その支援者である。一時の付和雷同はまだ許せる。しかし、いつまでも付和雷同のままの者は

書毒を流すバカである。

我が国の政界には、このいつまでも付和雷同のバカが多いのである。そして、ここに付け込んで、現在、「コミンテルンシナ支部とコミンテルン日本支部によって、(2)と(3)の「コミンテルン戦略が発動されている！」

昭和四十年代の大学は、あの状態になったのだが、現在は、まさに我が国政治が、「コミンテルンの掲げる反日、反戦、反ファシズム、戦争法反対、憲法違反、安保法制廃止のスローガンに付和雷同する者に左右されるのを中国共産党の独裁者と人民解放軍が待っているのだ。これが、国家の危機でなくて、なんであろう。」

よって、今こそ、「コミンテルンシナ支部と日本支部の戦略から日本を守る時がきているのだ。参議院選挙で、「コミンテルンを断じて勝たせてはならない。」

諸兄弟！ 西村真悟とともに、日本のここを大切にすれども、力を合わせて、日本を守ろう！

南九州市議会報告 浜田茂久
平成27年 第2回定例会(6月)
06月23日(01期)】

◆議員(浜田茂久) 通告なしでありましたけども、先の大戦の我が国の英霊に対する言ひ的予算計上がされておりましたので、発言せざるを得なくて発言いたしました。

ポーランドでアウシュビッツ、いわゆるユダヤ人虐殺が行われたわけでありますが、このポーランドのほうと話し合いをする予算、おおよね500万であります。我が国は、先の大戦では、詔勅にありますように、大東亜の植民地解放、さらに有色人種差別撤廃、これを大戦の大義にかけたわけであります。その大義のために我が国からは、この主役の方は日本国と家族のために散華された英霊がおられます。アウシュビッツの場合は人種差別の中でユダヤ人虐殺であります。この国と

我が国の亡霊に対する言ひ的予算と私は思いますが、市長の予算計上に当たったの思想をお聞かせ願いたい。

◎市長(霜出勤平) このアウシュビッツについては、浜田議員の認識はちょっと違うところではないかなというふうに思っております。これはポーランドにあるアウシュビッツ市でございます。このことについては、ドイツのナチスがユダヤ人を強制収容をして、いろいろと危害を加えた、その場所でございます。例えば、被害者の立場にあるアウシュビッツ市でございます。このことについては、やはりそういうような悲惨なことを繰り返さないということ、私も特攻基地のあったこの南九州市と、そして戦争で大きな被害を受けたアウシュビッツ市と連携して世界に向けて平和情報を発信していくということ、計画をいたしましたものでございます。

◆議員(浜田茂久) 赤子でもアウシュビッツのことはわかってる。私は、我が国の英霊に対する思いとドイツが行った人種差別的虐殺と全く被害というものが違う。我が国の英霊は家族と国のため、さらに死ぬ前に歌った歌があります。「仰げば尊し」です。恩師全体的にお世話になった方々のために命を捨てて国を守るために逝った、散華された英霊とアウシュビッツでドイツが虐殺したその意味が大きく違う。撤回を求める。

◎市長(霜出勤平) これは、先ほどから申し上げておりますように、ドイツとこういう提携をして平和情報を発信するということがないわけでは、ポーランドのアウシュビッツ市です。わかっているしやらぬから申し上げております。これは被害国なんです。ドイツから攻撃を受けた被害国なんです。そこ一緒に、この知覧から飛び立っていった、特攻で、生きたくても生きられなかった若者たちの無念を一緒になって、こういうことが二度とあってはいけないということで、我々は連携して世界に発信していくこと、そして

杉田謙一の歴史研究。歴史の語り
2016.06.27

「祭神に西郷隆盛と西南戦争」に戊辰戦争受難者を

総理の参拝が非難されてできないなどの異常な現状。もっと自由に参拝ができないか。まず提案は自民やまともな国会議員の本人または秘書の連携で靖国清掃団の結成。月1度は早朝開門時に清掃奉仕をなす。チリ一つ草一つなき聖域を維持する。

みんなで靖国に参拝する会の議員の皆さんが参拝されてみえるのも知っているし感謝もしている。そのメンバーから周辺の清掃をしてくださっているのは存じ上げている。その皆さんの心は澄み切っている。議員も秘書も靖国参拝の前に清掃奉仕をなす。その場に総理もご参加なされればよい。陛下の御親拝がなされる環境づくりをなすのが与党議員の責務と心得て実践されたいもの。掃除に文句を言うマスコミがあれば逆に都民の反感を買うのでは。また企業人も日を決めて清掃作業に入るのはいかがか。新人研修

世界恒久平和に貢献していくこと、そういう趣旨であります。

◆議員(浜田茂久) でありますから、ポーランドへドイツが場所を指定し、バルト三国のもめているところだから、当時の問題が今も引き続いておりますが、我が国の英霊とポーランドの事情は全然違います。ポーランドはポーランドのをやればいんです。もう一回、ポーランドの犠牲と我が国の英霊と一緒に考え方を持っているから取り消せと言っているんですよ。赤子でもわかる。アウシュ

にもなる。

「祭神について、会津市民は靖国神社参拝をどう感じて見えておらう。戊辰戦争で賊軍とされた不条理は歴史の機微に触れるのかも知れないが、あと2年で明治維新も150年。戦後でも70年を過ぎた。国民的英雄の西郷隆盛も靖国の祭神に正式には入って見えない。確かに近代国家を担った新政府側に国旗を翻されたが、これも第2維新の実施を訴えて決起されたもの。国事に生命をなげうち武闘の果てに亡くなったもの。境内神社での祭りではなく本殿への合祀がなすればより国民の崇敬の念は増すことであろう。線引きは厳格にはいえもう150年そろそろ検討課題ではなからうか。

三ヶ根の百八観音は敵兵の供養もしている。陸軍墓地にはロシア兵の墓もある。興亜観音も同様。松井石根閣下の思いに沿ってお祭りされていると聞く。靖国神社ももう戊辰戦争や西南戦争のこだわりを捨て、国事に殉じられた御霊に国民として慰霊ができるようにできないものでしょうか。

ビッツは知っているんですよ。我が国の外交官は、数千名、自分の職務を捨てながらも死を決意して、数千名、ユダヤ人をアウシュビッツから救っている。そういう思いの我が国の先人に対しての思いとアウシュビッツでユダヤ人が虐殺されたものと一色胆にするのは困ると議事録でちゃんと残しておきたい。これは後々議論される問題であるから、絶対に同一することは相ならんということをお願い、もう一回、発言を取り消しを求め。これについては私は反対だ。

大西瀧次郎閣下の遺書

昭和 20 年 8 月 16 日

特攻隊の立派な霊たちに告げる。今までよく戦ってくれた。ありがと。心から君たち感謝する。君たちは日本の最後の勝利を信じて、肉のタマとして散っていった。しかし、きみたちの尊い信念は遂に達成することは叶わなかった。私は自らの死をもって、きみたちと君たちの遺族に謝罪する。

次にこれから生きる戦後の日本青年たちへ告げる。
私の死は軽々しい行動を取り、利敵行為となってしまうから。私の死は陛下の尊い決断に従ったものだ。だから、これが自らへの戒めだと思ってくれば嬉しい。

戦後を生きる日本人たちよ、これから苦しい時代を生きるだろう。だが、どんなに苦しくても日本人としての誇りを決して失わないでほしい。

日本の子供達、君たちは「日本という国」の宝だ。どんな時も、「絶対くじけないんだ！」という特攻精神を持ち続け、日本全民族の福祉と、世界の平和の為に最善を尽くしなさい。

特攻隊の英霊に曰す、善く戦ひたり深謝す。最後の勝利を信じつつ肉弾として散華せり、然れ共其の信念は遂に達成し得ざるに到れり、吾死を以て旧部下の英霊と其の遺族に謝せんがとす。

次に一般青年に告ぐ。我が死にして軽拳は利敵行為なるを思ひ聖旨に副ひ、奉り自重忍苦するの誠ともならば幸なり。

隠忍するとも日本人たるの矜持を失ふ勿れ。諸子は国の宝なり。

平時に処し猶克く特攻精神を堅持し日本民族の福祉と、世界人類の為 最善を尽くせよ…

編集後記

教育の目的と重要性

今更なんだ！ という話だが今さらながら嘆き節を。

商店街のシャッター通りを、「誰がこうした！」と言ったら「イオン（岡田民進党代表のルーツ）だ！」と冗談とも本気とも言えない答えに笑うが、果たしてその責任はどこにあるのだろう。

実は私の事務所の横に事実上駐車場になっている 300 坪ほどの土地がある。ここはタウン管理財団の土地。この財団は大阪府の外郭団体で税金も入っている。そこを商店会の人達が占有し、事実上外部の人に使用せられないようにしている。共有スペースを私有地化しているのだ。財団に問い合わせると「商店会に管理を任せているが、私有地化など認めるわけではない。トラブルなら、一切の立ち入りを禁止せざるを得ない。」と言う。

そこでマスキコン、維新の真似をして既得権益打破で「皆に使わせろ！」と商店会に話に行った。話し合いの感想は、こりゃアカン。商店会の人達は自分の利益、自分の都合しか言わない。彼らにも個々の事情があつて一枚岩ではないのだが、ともかくにも自分の都合しか言わないのだ。相手の都合、相手の立場などお構いなし。まして全体の利益（商店会の発展）など微塵も考えていない。「貴方の土地ではないでしょ。」「今まで商店会で話し合つて停めていた。」「しかしそれは内部の話で、私のような外部には対抗できないでしょ。」「言葉は荒くないが筋も理屈も法もない。」

実は一年ほど前に、この商店会の再開発の話があった。ところが頓挫したらしい。これだけ工場の塊の連中がいたら、再開発など絶対不可能。元々半分くらいがシャッターだがさらに増えるだろう。

そこでシャッター街のことを思い出した。昔で言えばダイエーだが、イオンやいすみやなどの大型店舗ができること、それに対抗するには商店会の一致団結。知恵を出し合い対抗するしか方法がない。個々が言いたい放題を言っていたら、大型店に勝てるわけがない。当然後継者も嫌気がさすだろう。

れば、自分の力で生きていく術を習得させることとなる。人は自分一人では生きられない。当然協調性が必要になる。元来日本人は農耕民族。協調性が重要視され、協調性を大事にした。個を押さえ全体を考える。相手を思いやる「こころ」シャッター街の原因は戦後の民主主義、行き過ぎた個の尊重と言つたら言い過ぎだろうか。百人の会の仕事は永遠なり。

活動資金ご協力のお願

郵便振替 00980-8-245547 MASUKI情報デスク
口座振替 093024547 MASUKI情報デスク
三郷市栄町1丁目5番5号 044349 増本重夫

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。
『M情報』は、後記のサポートしている団体にご縁のあった人の名簿を管理し、『M情報活動報告』を現在のご毎月全国約 5 千（目標 1 万）部発送しております。

このレポートにもありますように、私も子供達に誇りある国を残すため、日々命がけて戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっています。『活動の報告書』です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしく願ひいたします。

原稿・同封資料の募集について

掲載ご希望の論文、情報等ございましたらどなたも表記事務所までお送りください。また、弊紙はメールで発送いたします。

掲載ご希望の論文、情報等ございましたらどなたも表記事務所までお送りください。また、弊紙はメールで発送いたします。

諸情報のメール配信について

『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はごよりも詳しく多種多様。『量が多過ぎればお困りなさい』

ですが、試して一度受信してみませんか。不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを（発信名義「NPO法人百人の会」）。
mailto:100prs@oregano.ocn.ne.jp